

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4690100674		
法人名	医療法人 裕智会		
事業所名	グループホーム アルプスの風		
所在地	鹿児島市荒田一丁目11-1		
自己評価作成日	平成24年2月7日	評価結果市町村受理日	平成24年4月24日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

医療連携体制をとり、週1度看護師による健康管理を行っている。  
 事業所の1階にクリニックがあり、体調の変化にすぐ対応することが出来る。  
 ボランティアによる歌や演奏の受け入れもあり、入居者の楽しみの一つとなっている。  
 法人の理事長(整形外科医師)による健康体操・嚥下体操もあり、  
 生活の中にレクリエーションや物作りも取り入れ、生活全般の機能維持を図っている。  
 排泄機能維持と歩行維持を考え、トイレでの排泄継続に力を入れている。  
 講演会を開催し、地域の人に認知症の理解を深めてもらえるような取り組みも行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="#">県ホームページより</a>
----------	---------------------------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

鹿児島市交通局近くにあり、買い物や交通など利便性のいい開設1年目を迎えるホームである。  
 5階建の事業所には、法人のクリニックや居宅介護支援事業所、通所リハビリや訪問リハビリもあり、3・4階にホームはある。ホーム内の清掃が行き届いており、清潔感がある。家族会や面会の状況からも家族が協力的である。  
 入居後の利用者の表情が明るくなったと多くの家族から喜びの声が寄せられている。地域との交流については、ホームの行事や災害時の協力体制の訓練をとおり、少しずつ深めていきたいと考えている。  
 職員は、入居者一人ひとりの気持ちを大切に、家庭的な雰囲気づくりを目指しており、今後成長が期待できるホームである。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成24年3月13日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に地域密着についてうたっており、目に入る場所に掲示し、全員が朝礼で唱和して共有できている。地域との交流体制もある。	「あなたの家族や地域との繋がり」などを含んだ理念は、各ユニットの入口や事務室に掲示してある。職員は、理念をよく理解しており、夏祭りや地域行事に参加するなど実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	夏祭りや、餅つきなどの行事を通して地域との交流を図っている。事業所自身が日常的に交流、とまではいかないが、民生員さんとの交流や地域にある施設ということを大切にしたい受け入れもしている。	併設クリニックが町内会に加入しており、地域情報を収集している。ホーム行事への招待や園児との交流、中学生の職場体験の受け入れをするなど地域との触れ合いを図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の参加を呼びかけ、主治医による認知症の予防についての講演会、管理者が認知症の理解について話をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回、運営推進会議を開催しグループホームの生活の様子や、課題や改善点などの意見交換を図っている。詳細については記録に残している。	会議は、利用者も交代で出席し、認知症ケアの講義をするなどサービス向上に繋げている。事業所の行事報告、意見交換等については、議事録によりよく記載されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開設前後は頻回に連絡を取り、助言や協力をもらってきた。現在回数は減ったものの、協力関係の重要性を認識し、必要な協力関係を継続していくつもりである。	ホームは、市担当者へ介護業務加算についての相談や不明な点をすぐに相談できる関係づくりがなされている。又、地域包括支援センターとは、運営推進会議や管理者が講話依頼を受けるなど協働してサービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修を、全ての職員が参加して行い、身体拘束0の認識を持っている。身体拘束廃止のマニュアルもあり、定期的に評価を行うことも明記しているが、身体拘束の事例はない。	法人全体での研修があり、事前・事後のアンケートをもとに勉強会をするなど身体拘束に対する理解を深めている。職員の都合で行動を制限しないなど自由な暮らしを実現している。	
7		○虐待の防止の徹底			

鹿児島県 グループホームアルプスの風

年度	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の必須研修として、身体拘束廃止の研修と共に受講した。人権や、及ぼす影響も学んでおり、防止できる環境にあり、虐待が見過ごされることもない環境を整えている。		

鹿児島県 グループホームアルプスの風

自 ら	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は成年後見制度・権利擁護について研修を受けており、必要に応じて活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には契約書を読み合わせ、疑問点があれば質問できるようにしている。今後、解約や改定が必要となった時も一方的に運ぶことはなく、十分な説明をして、納得してもらえるようにしていく所存である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入り口に「ご意見箱」を設置している。家族会では家族が自由な意見を言える時間を設け、職員は退席している。後でその意見が、家族会会長より管理者に伝えられるようにして、運営に反映するようにしている。	ホームは、年2回の家族会や面会時に家族に要望を聞いている。いつでも個人経過記録を閲覧できることを家族に伝えてあり、意見を引き出す工夫をしている。2ヶ月毎の便りで管理者や担当職員が利用者の状況を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員カンファレンスを月に1回実施して、意見が出せる機会をつくっている。運営・業務の内容や方法も職員間の協議を重要視し、反映するようにしている。	管理者は、月1回のカンファレンスや個人面談時に職員の意見を聞く場を設けている。意見の中より、入浴時間に合わせて、勤務体制を柔軟に変更するなどケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働く環境・条件を整えるため、目標管理面接や、人事考課表を活用して、客観的な指標のもと、頑張りを適切に評価できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	約5回の内部研修の機会を設け、外部研修参加の紹介も行っている。様々な外部研修にも参加してしているが、今後更に、本人自らの外部研修受講意欲に繋げるように努力していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修における同業者との交流の機会や、同業者の実習受け入れによる交流の機会がある。今後ともサービスの質の向上を図る努力を惜しまない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族との事前面接で得た情報を基に、本人の困りごとなどを聞くようにしている。サービス開始時にはその人の「思い」を反映した暫定ケアプランを作成し、安心が確保できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面接を行い、困りごとなどを聞く機会を設けている。これまでの介護に対するねざらいと、要望の理解、介護負担の軽減に向けた話などで関係をつくれるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入時に優先順位を考えている。何をどのようにしたらいいのかを考え、早期に入居者の安心や安定となるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援・できることはする、という意識となるように働きかけている。しかし、状態により難しいこともあり、アセスメントを十分に行い「できること」を把握して、共同生活者としての良い関係を図っていく必要がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に、家族と私達は入居者を挟んだケアチームであると、話をしている。面会に関しては、喜んで足を運べるような環境設定の努力も必要である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会の自由を確保しており、職員も同行するなど、今までの生活が保持できるようにしている。	馴染みの人や場については、家族面会時や日頃の生活の中で把握している。ホームは、面会時にゆっくりと話せる環境づくりに努め、家族協力のもと、行きつけの美容院へ行くなど個々に応じた支援をしている。	ホームは、馴染みの人や場の関係について、家族会や日頃の生活の中でさらに情報収集し、書式を統一することで個々に応じたケアが充実できることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやティータイムにおいて、共に楽しみながら関係を作っている。時々入居者同士が、できないことを助け合っている光景も見られ、この関係の継続ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人内のサービス利用継続の人に対して、その後の様子を聞いたり、家族の要望があれば、必要なことを支援するなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	そつともらした言葉や表情・心身の状態から、思いや希望を受け止めるようにしている。定期的にモニタリングをすることで、思いを反映したケアができたかを確認している。	職員は、利用者との日々の関わりの中で本人の意向や思いを把握し、随時ミニカンファレンスなどで情報を共有し、本人の意向を尊重した支援ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書、家族やケアマネからの情報による収集や、フェイスシートを作成し職員が一人ひとりの人の生活背景や、状況を理解できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に入る前に経過記録や生活日誌に眼を通し、その人の情報を収集をしようとしている。現状の把握ができないと、良いケアを提供することはできないと考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員の記入したモニタリングを参考に、計画作成担当者が総合的な視点でモニタリングを行い、介護計画を作成している。実施の前に本人や家族とのカンファレンスで協議を重ね、介護計画に反映している。	介護計画は、利用者や家族のほか、定期受診時の主治医の意見も取り入れ作成されている。サービス担当者会議には、家族の出席もある。又、モニタリングは、3ヶ月毎に担当職員の意見を取り入れ、計画作成担当者が行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータリングの様式で経過記録の記載をしている。実施したケアや本人の思いや状況は、フォーカスの文面からだけでも収集でき、必要な情報の把握を含め、ケアや計画の直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の思いや状況の変化を把握してケアを行っている。豊かに発想することで、入居者の多面的な理解となり、柔軟な支援やサービスの豊かさに繋がっていくと思ひ努力をしている。		

鹿児島県 グループホームアルプスの風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや校区の中学校の「職場体験」受け入れを行っている。まだまだ地域資源の活用をしていくためにも十分に資源の把握をしていく必要があり、入居者視点のケアマップ作成が課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一階に主治医のいるクリニックがあり、定期的な受診をしている。状態の変化にもすぐに対応できる体制にある。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望を踏まえ、全利用者が併設クリニックへ月2回受診している。受診結果については、ホームより家族に説明している。遠方の家族には、メールで伝えるなどの工夫をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニットに看護職がいる。管理者(看護師：法人との兼務)とクリニックの看護師による医療連携体制があり、1週間に1回の健康チェック、随時の看護判断などの体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成して、情報の提供を行っている。入院後は見舞いに行くなどして、状態の確認をして、できるだけ早期に退院できるように働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの介護に対する指針を作成して、入居時には説明・同意・契約を行っている。看取りの必要時には再度協議をすすめるが、看取りの事例がまだなく、「地域の関係者と共にチームで支援に取り組む」ことは、まだ想定ができていない。	重度化や看取りに対する対応指針を定め、入居時より本人や家族に説明し、同意をもらっている。その後も状況に応じて、本人や家族、かかりつけ医と相談し対応していく意向である。職員間の話し合いや勉強会も予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命の院内研修を受け、応急手当や初期対応を学んだ。急変時のマニュアルもあるが、「実践力を身につけている」と評価できるようになるためには、更に努力が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回以上の避難訓練の計画・実施、運営推進会議に消防署の人に来てもらい、避難方法と必要な知識獲得のための指導を受けた。	あらゆる想定でマニュアルを作成し、消防署立ち合いの下、避難訓練(昼・夜)を実施している。消防署より地域住民の協力体制が必要であると助言をもらっている。	自主訓練や地域の協力体制を確立し、地域住民と合同で訓練に参加できることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフが互いに声を掛け合い、誇りや人格の尊重、尊厳の保持、プライバシー保護についての意識付けを行っている。	認知症やプライバシーについて研修をしている。入浴やトイレ介助時などのプライバシーを損ねない声掛けや接し方について、職員間やミーティング時に確認し合い、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションやティータイムの時など、折に触れてコミュニケーションをとっている。普段の会話を大切にすることが思いの表出となり、自己決定に繋がるサポートにもなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれ得意なことの違う職員が、その人のペースや、趣向、希望を大切に、協力しながら入居者の生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人がその日に着たい服を共に選び、化粧や整髪などで共に喜び、入居者のおしゃれを大切に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の得意な入居者が、職員と共に食事の準備をしている。台拭き、お盆拭き、後片付けなどそれぞれの入居者の好きなことや力を活かしながら共同生活をしている。	献立は、毎食担当職員が作成・調理している。利用者と共に買い物へ出かけることもある。又、ソーメン流しや弁当持参で出かけたり、誕生日にはケーキでお祝いするなど食を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や、食事の形態はその人に合わせ、全く食べれない位嫌いなものは、他の食品にするなどの支援をしている。栄養のバランスも考え、水分の摂取量は1日量を満たすように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔清潔の重要性を職員が理解して、毎食後に口腔ケアの声掛けと必要な支援を行っている。		



鹿児島県 グループホームアルプスの風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄は、その人の尊厳保持に繋がりが、認知症の進行にも関わる事と考えている。理念の中に「…歩くこと…」をあげていて、可能な限り排泄の自立や、トイレでの排泄支援をしたいと考えている。	個々の排泄記録から排泄パターンを把握し、トイレへの声掛けや誘導を行っている。オムツからリハビリパンツへ下着形態が改善された利用者もプランより確認できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が心身に及ぼす影響を考え、排便のチェックをして、必要な支援に繋いでいる。日常的には飲食物の工夫や、個人に合わせた運動も支援している。法人の理事長が毎夕体操に来てくれる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせた入浴はしているが、曜日はほぼ決めている。必要時の入浴は制限なく行っているが、安全や人員配置を考えた時、自由にどの時間帯でも入浴が出来る体制にはない。しかし入浴を楽しめるようには取り組んでいる。	入浴は、週3回程度で主に午後から実施している。失禁などで汚染がみられた場合も、随時対応している。入浴後のみだしなみを楽しみにする利用者もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安な状況があれば安心できるような声掛けなど、入眠前の安心を大切にしている。室温や湿度を考えながら快適な睡眠が取れるような工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の定期受診の後、薬局から薬と共に届く約定を見ることや、副作用、用法、容量などの薬剤指導を受けている。主治医も状態による服薬の目的をきちんと伝えてくれ、状態の変化にも気づきやすい環境にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた自立支援を心掛け、調理、食器の後始末や洗濯物たたみなどの生活における役割と、レクリエーションや活動・散歩などの楽しみごとや、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は散歩や買い物などの外出の機会がある。また、花見やソーメン流し・敬老会の食事会など外出レクリエーションの機会もつづけている。家族と共に外出する事もある。	天気の良い日は、近隣を散歩したり、屋上でくつろぐなど外気に触れる支援をしている。敬老会や花見、ソーメン流しなどに出かけるなど外出支援をしている。	外出計画を立てて、個々の希望に添った支援が実現できることを期待します。

鹿児島県 グループホームアルプスの風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することの安心感を考え、入居の時に紛失しても構わないほどのお金をもたせてもらえるようにと話してある。また、小口現金としても預かり、希望の物を職員と共に買いに行けるようにしている。(収支は職員二人のチェック体制)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという時には、家族のその時の状況を考慮しながら職員が支援している。書いた手紙を直近での面会で家族に渡したことがあるが、郵送をしたことはない。交信の自由は基本的なことと捉え大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、入居者と職員とで季節を感じられるような絵や置物を共同制作して飾ってある。入居者が混乱するような生活環境とならないように配慮をしている。入居者の自立支援に適切な環境圧力設定も大切と考えている。	広いリビングには、立派な雑壇や日めくりカレンダーなどがあり、季節を味わうことができる。利用者がソファでゆっくりとお茶を飲みくつろぐ姿が見られる。トイレの電気をつける動作など、利用者の自己決定を大切にしている工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の交流やコミュニケーションが図れるよう、皆で楽しめるレクリエーションに取り組んでいる。(トランプ、制作活動など)ソファを設置することで団欒の場となっている。プライベートな時間を持つことも大切と支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に本人の使い慣れた家具や持ち物を持参してもらいように話している。馴染んできた環境に近い形で、安心して生活をしてもらいたいと考えている。居心地よく過ごせるように、毎朝の清掃や定期的な寝具交換も行っている。	鏡台やテレビ、家族写真など個人の思い思いの品々を持ち込むように家族へ働きかけている。職員は、居室の衛生管理に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在、入居者はグループホームの生活環境にも慣れ、環境で戸惑うことはなくなっている。今後、状態による変化にも配慮し、一人ひとりの入居者の環境を評価して、安全・安心な環境の設定をしていくつもりである。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に、「あなたの家族や地域との繋がりを大切に」とうたってあり、法人での夏祭りの開催や地域のイベントへの参加、校区の中学生の職場体験受け入れなど、地域との交流体制がある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩やイベントへの参加、運営推進会議への地域住民の参加など交流の機会を設けている。日常的な交流には更なる機会の設定が必要。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域の人に参加の声をかけ、主治医による認知症の予防の講演会・管理者からは認知症の理解となるように話をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事や状況の報告と共に、入居者にも順番に参加してもらい、実際の様子から客観的な意見がいただけるようにしている。会議の内容を記録に残し、職員が目を通して、ケアに繋げるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地区担当の包括支援センターの職員に参加してもらったり、地区の消防署の職員に参加してもらったりなど、協力関係ができるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束や虐待についての研修を行い、法人の全職員が身体拘束をしないよう取り組んでいる。身体拘束にあたる全ての行為を理解した上で、人権や尊厳を大切にケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底			

鹿児島県 グループホーム アルプスの風

内 部	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の必須研修として法人内研修を実施し、虐待とは何か、また、その心身に与える影響を学んだ。虐待をすることも、見過ごされる事もない環境を整えている。		

鹿児島県 グループホーム アルプスの風

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は成年後見制度について研修を受けており、集中講義で学んだ職員もいる。必要に応じて活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時に重要事項や契約の内容を説明して、十分な理解が得られ、納得できるようにして締結を行っている。解約や改定には至っていないが、十分な説明なく進めることはない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入り口に「ご意見箱」を設置している。家族会の開催時には、家族が忌憚のない意見を言えるよう職員が席をはずし、家族会の会長にまとめてもらう時間をつくって、後で意見を伝えてもらえるように工夫をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員カンファレンス時の意見や提案を聞く機会、連絡ノートを活用、日常的に話しやすい雰囲気を作れるように心掛けている。必要な時にはこれらのことを、代表者にも伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理面接や、人事考課表を活用して、一人一人の職員の努力や実績が収入にも反映できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修が年間5回ある。更に外部研修の充実を図ろうと努力中である。認知症の人の良い環境づくりのため、職員の育成には力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修での同業者との交流や、事業所見学の機会を捉えた紹介、実習生の受け入れなどでの学びあいなど、サービスの質の向上には力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供や、家族からの聴き取り、全体像を理解して、本人が困っていることの解決に向けたプランの作成や対応など、同じ場所で生活しながら日々関係が作れるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階で、介護負担や、困りごとの相談も受けるようにしている。入居契約の時に様々な意見に耳を傾けながら、家族と職員は入居者を支えるために良い関係作りをする必要がある事を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスの優先順位を考えている。すぐに改善に向けケアをする必要があるものを把握して、専門職として必要なケアを実践していくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の入居者が自分のできる力を生活の中で活かし、自分の思う生活を選択・決定してほしいと働きかけている。しかし、介護される一方の人もいて、「できること」をアセスメントすることが課題である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居相談の時、入居時、家族会の時など、折に触れて家族と私達はケアチームであることを伝えている。家族は入居者にとって大きな存在であると伝えていて、更に面会の頻度が増える働きかけをする必要がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日中の面会時間を制限せず、家族や知人が時間の取れた時に来訪できるようにしている。その人の生きてきた生活の背景を大切にしたいと思っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係では、職員が介入しないといけないことが発生する。どちらの人も不満(不快感)なく解決できるように気をつけて、必要な介入をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ開設して日が浅いが、退居時には「いつでも遊びに来て下さい」と伝えている。看取りの指針の中にも、「その後」のご家族の支援もする旨を書いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はコミュニケーションの大切さを理解している。言語として伝わらなくても、生活の背景・様子や、思考傾向の理解、非言語面からも本人の意思を把握し、その人の思う生活となるように考えケアに繋いでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入居までの利用事業所などからの情報提供を受けている。その人の継続した生活と、必要なケアを見落とさないためにも重要と考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時とは心身の状態の変化が見られている。ケアはその人をアセスメントすることから始まると考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	暮らし方や、本人・家族の希望や意向を考慮した上で、必要な介護計画を作成している。モニタリングは担当介護職とケアマネが協力して、重層的なモニタリングとなることを目指しているが、努力が必要である。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、大切な情報であり、フォーカスチャータリングの方式を取り、充実を図っている。介護計画にも活用できる情報源となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のこれまでの生活は様々であり、その人の生活を支えるためには、通常のサービス内容ではカバーできないこともあり、個人個人に合わせた柔軟な支援の必要性を痛感している。		

鹿児島県 グループホーム アルプスの風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源の知識と共に、多面的なケアの視点が必要と考えている。現在月一回の専門家による「音を楽しむ会」があり、ボランティアによる生演奏とボーカルを計画・実施し、アコーディオン演奏の受け入れ予定もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一階に主治医のいるクリニックがあり、定期的に受診をしている。状態の変化にもすぐに対応できる体制にある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の管理者のほかに、看護職が一人常勤している。医療連携体制による健康チェックも週一回行っており、変化への対応が早くできる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーによる情報提供、入院中の見舞いを行い、法人での加療が可能で、グループホーム内の生活ができる状態となったら、できるだけ早期に帰居できるように、家族や医療機関とも情報交換・関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と看取りの介護に関する指針について説明し同意を得ている。重度化・看取りをすることになった時、本人・家族と話し合い同意の上でプランを作成し、支援していく予定。「地域の関係者と共に」はまだ想定ができていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内研修で外部講師(日赤に依頼)による実技を含む救急法(応急手当)の勉強会を実施した。ほぼ全員が参加し習得している。急変の対応には医療連携体制もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し消防署の指導を受けて、年2回の避難訓練を入居者と職員で行っている。運営推進会議の中で、地域の人と一緒に、消防署の人から避難の方法などの指導を受けた。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重と、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけは、ケアの中心におく大切な事と心している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを知ることは適切なケアに繋がり、入居者の安心できる環境をつくる上で重要なことでもあり、認知症となっても可能な限り自分の人生の決定をしてほしいと考え、努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアを心がけ、一人ひとりのペースや希望を受け止め支援をしている。入居者が生活のなかで互いに受ける影響に対して、一人ひとりが不快なく介入する力などの課題もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣類を購入するために外出をしたり、カットに行ったりと、いつまでもおしゃれができることに喜びを感じられるようにと支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を共にすることは難しい人も、配膳や下膳、お盆拭き、台拭きや茶碗洗いなど好きなことや力を活かして何らかの役割を持ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	治療食としては提供できないが、食材や量は基礎疾患を考慮している。栄養バランスは職員一人ひとりが気を配っている。現在、慢性疾患があり大盛りのご飯を望む人の、生活習慣を変えられるように努力中である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや、口腔ケアの介助を行っている。		

鹿児島県 グループホーム アルプスの風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄援助は認知症の進行を遅らせる大切なケアのひとつだと考えているため、トイレでの排泄が続けられることに重点を置いている。オムツの使用もできるだけ減らせるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	BPSDのひとつの原因が、便秘による不快感や体調不良であることを理解してケアを行っている。個々人の排泄パターンを考え、食事や、飲水、運動などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決め時間帯は希望に合わせているが、常時の希望入浴は人員と安全面を考慮すると難しい面がある。入浴拒否の人にはタイミングをみて、入浴が必要な状態にはすぐに対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前の過ごし方は良い睡眠に繋がると考えている。安心した状態で入眠できるように支援している。また、本人の休みたい時に休めるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容を職員は周知している。処方変更についても、根拠を示して記録に残し、全職員が周知できるようにしている。症状の変化も服薬との関係からも確認できるように支援体制がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の背景を知る事と、状態の変化を考慮した個々人の生活支援をしている。「今」の役割や、嗜好品、楽しみごとを本人の「思い」から把握し、気分転換支援も大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、買い物など戸外に出かけられるように心がけているが、毎日は難しい面がある。行事を計画し、戸外に出かけられるような支援はしている。		

鹿児島県 グループホーム アルプスの風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族には、「万が一紛失しても良い程度のお金を持たせて上げて下さい」と頼んでおり、小口現金としても預かり、買い物の時に財布から支払う喜びを実感してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話がしたいという希望があれば電話まで案内し、家族からの電話にも本人に繋いでいる。手紙のやり取りは難しいが、入居者の外部と自由に交流をする権利を理解して支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるように壁絵を作成したり、日めくりカレンダーで月日が理解できるようにしている。環境が与える影響を理解しているので、心地よく過ごせる工夫や配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時に一人でいられることはとても大切なことと考えている。過度な安全対策がプライバシーの侵害にならないように気をつけている。入居者同士で交流できるようにソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に居室を見学してもらい、馴染みの家具などで安心できる空間・生活環境となるように伝えた。入居後の持ち込みも同様に考えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の入り口に手作りの表札をかけている。(個人情報表示の了解を得た人)また、自室の認識ができるような飾り物もある。力を発揮できる環境(一定の環境圧力は残し)で自立支援をしている。		